

脳卒中・脳神経内科初期研修

◇ 研修目標および特徴

急性期脳梗塞患者について、救急来院時から退院（転院）までの診療の流れを経験し習得すること。

新・内科専門医制度のカリキュラムに沿って、神経疾患の診療を経験すること。

◇ 研修内容

- 1) 脳梗塞急性期に必要な病歴を正確に聴取できること。
- 2) 脳梗塞急性期の神経学的所見(意識レベル、運動・感覚障害、脳神経症状、失調、高次機能障害)をとれるようになること。また、その所見と病巣局在との対応が考えられるようになること。
- 3) 各種画像診断との組み合わせにより、ラクナ梗塞、アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓症、その他の病型分類ができるようになること。
- 4) 各種検査に参加すること。
- 5) 各種病型に応じた治療(安静度、輸液、投薬)を学ぶこと。
- 6) 急性期に引き続く後療法(動脈硬化危険因子の管理を含む)を選択できること。
- 7) 後遺症の判定と家族との関わり合いの中で急性期加療後の方針が立てられること。
- 8) 経験した神経疾患の診療レベル到達度を自己評価できる。

◇ 指導スタッフ

◇ 橋本 弘行：日本内科学会総合内科専門医、日本脳卒中学会認定脳卒中専門医、日本脳神経超音波学会認定脳神経超音波検査士、臨床研修指導医

◇ 棚橋 貴夫：日本内科学会総合内科認定医

◇ 由上 登志郎：日本内科学会総合内科専門医、日本脳卒中学会認定脳卒中専門医、日本神経学会認定神経内科専門医

◇ 診療実績、診療設備

平成 30 年入院患者数 258 例

(急性期脳梗塞 172 例)

◇ 専門医、認定医、教育病院など学会の指定状況

日本脳卒中学会教育指定病院

日本神経学会准教育施設